

令和5年度

授業改善推進プラン

～学力向上を図るための全体計画～

大田区立中富小学校

令和5年度 授業改善推進プラン

～学力向上を図るための全体計画～

大田区立中富小学校

- 教育基本法
- 学習指導要領
- 東京都教育委員会教育目標
- 大田区教育委員会教育目標

学校教育目標

- 健康な子ども
- よく考え進んで行う子ども
- 美しい心の子ども

- 学校・地域の実態
- 保護者の期待や願い
- 地域の期待や願い
- 育てたい児童像

各教科の指導の重点

問題解決的・体験的な学習を進め、自主的・自発的な学習をしたり、すすんで読書活動をしたりするなどの意欲や態度を育成する。
学ぶことの楽しさを実感させるとともに豊かな創造力や柔軟な思考力を育てる。

総合的な学習の時間指導の重点

自ら課題を設定し、探究的な学習活動を通して自らの生き方について考えさせる。
既習事項やICT機器を活用し、国際化・情報化社会をたくましく生きる力を育てる。

中富小学校の教育像

- ☆主体的・対話的で深い学びを基軸とした教育
- ・基礎的・基本的な学力の定着と個に応じた指導の推進
- ・学習形態の工夫と多様な学習活動の展開
- ・知識の生活化と生涯教育の推進

道徳教育の指導の重点

全教育活動を通して、基本的な生活習慣を身に付けさせ、道徳的な心情や判断力と実践意欲・態度を育てる。情操豊かで道徳性のある子供を育てる。

学校経営方針

(学力向上に関する部分抜粋、要約)

主体的な学習に取り組む児童の育成

- 基礎的・基本的な内容の定着に向けて
基礎・基本を押さえた授業、習熟度別少人数算数指導補習教室の充実、ステップ学習の確実な指導、読書活動、家庭学習の習慣化
- 主体的・対話的で深い学びを目指す授業
思考力・判断力・表現力の育成、ICT活用、ESDの視点に立った学習指導、学習技能の育成、プログラミング教育

教員の指導力向上

- 研究、研修、OJTの実施、指導方法の共有化

特別活動の指導の重点

望ましい集団活動の体験を豊かにする。
学校行事は協力や思いやり、成就感を味わわせる等、心の教育を充実させる大切な活動として位置付ける。また、表現力や創造力を発揮させる機会とする。

外国語活動の指導の重点

英語を中心に、児童のコミュニケーション能力が高まるよう、系統的に指導する。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	学習指導の工夫・改善	評価・評定の工夫	校内研究・研修の工夫	家庭・地域との連携工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○毎週火・金曜日に朝学習の時間を設定し計画的に基礎学力の定着を図る。 ○毎週水曜日に朝読書の時間を設定し読書習慣の形成を補完する。 ○5・6年生に外国語、3・4年生に外国語活動、1・2年生に大田区外国語活動を位置付け、英語に慣れ親しむ時間を確保する。 ○各学年の週の授業時数を十分に確保し、基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数学習で少人数指導を全学年に導入し個に応じた指導の充実を図る。また木曜日・土曜日に補習教室（寺子屋中富）を行う。 ○体験的な活動や本物に触れる機会を大切にして、児童の興味・関心を重視した教育活動を展開する。 ○言語活動を意図的、継続的に授業に取り入れ思考・判断・表現の各能力の伸長を図る。 ○ICT教育の充実を図り、タブレットを使用したプログラミング学習を全学年で実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の年間指導計画に評価規準と評価計画を作成し、指導に活用する。 ○形成的な評価を重視して、児童の学習意欲が持続するように工夫していく。 ○評価に当たっては、各教科の評価規準による絶対評価と日常の評価の累積を総合的に評価して決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究では、算数科「わかった・できたが実感できる授業づくり～知識・技能の定着をめざした指導の工夫～」を研究主題として、児童の知識・技能の定着を図っていく。 ○教員としての資質向上を図るため計画的に研修会を設定する。内容は「特別支援教育研修」「ICTの効果的な活用のための研修」等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域教育連絡協議会による学校関係者評価に基づき、授業を工夫改善し次年度の教育課程に反映させる。 ○学校支援地域本部「スクールサポートなかとみ」の協力を得て、ゲストティーチャーを活用し、各教科、行事等に地域の人材を活用し、授業の質を高めていく。

【 国 語 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・全校で言葉の学習に力を入れたことにより、学年による差はあるが、言葉や漢字に興味をもてるようになり、知識・技能が付いてきている。 ・音読練習に継続して取り組んだことにより、間違えずに音読する力が付いた。 ・学級文庫を充実させたことにより、読書に対する関心が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が乏しく、文章の内容を正しく読み取れない。 ・指定された条件に沿って文章を書くことを苦手としている。特に段落について理解している児童が少なく、段落を意識した文章を書くことが難しい。 ・自分の考えをまとめたり、表現したりする力が乏しい。 ・習熟度の個人差が大きい。

②令和5年度「大田区学習効果測定」調査結果分析

- 「知識および技能」では、どの学年も目標値と同程度の正答率となっている。4年生は、「知識・理解」全体としてはわずかに目標値より低いものの、漢字のへんやつくりに関する問題では目標値を大きく上回っている。5、6年生は、目標値よりも正答率が上回っている。特に言葉の学習に関しては、概ね目標値より高い値となっている。5年生の「漢字辞典の使い方」は昨年度目標値を下回っていたが、今年度は正答率が高い。
- 「思考・判断・表現」は、どの学年も目標値よりも正答率が低い。「話すこと・聞くこと」では、前年度と同様、話し合いの内容を聞き取ることではできているが、聞いたことから自分の考えをまとめる力が弱い。
- 「読むこと」では、5、6年生は、物語の叙述を基に内容を捉える力が身に付いている。説明文の内容を読み取ることは、どの学年も課題となっている。4年生では、物語文・説明文とも、叙述を基に内容を読み取ることが課題となっている。
- 「書くこと」では、どの学年も目標値に近い正答率だった。5年生では、「書き方を工夫して表す」、6年生では「自分の意見とその理由を明確にして書く」の問題の正答率が高くなっている。

③今年度の授業改善プランとして

改善の ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能…表現や理解のために必要な言葉のきまりや、ひらがな、かたかな、前年度までの既習漢字を確実に身に付けさせる。読む力の向上に繋げるため、音読練習に取り組ませる。ローマ字の読み・書きの定着を図る。そのために、ICT機器やICT教材等を利用する。国語辞典、漢字辞典を活用する能力を伸ばすため、進んで活用する。 ・話すこと・聞くこと…大事なことを落とさずに聞き、聞いた内容を生かして、相手意識をもって分かりやすく話し合うことができるように、「話す・聞く」の活動を多く取り入れるようにする。 ・書くこと…作文指導でも、相手意識をもたせたり、目的や意図に応じて書かせたりする。表現力を伸ばすために、書く活動の場を増やしたり、書いたものを発表し合っ感想や意見などを交流する活動を取り入れたりする。また、短作文を繰り返し書かせたり、条件や字数を指定して書かせたり、段落を意識して書かせたりする活動も取り入れる。「書くって楽しいね」の冊子を活用する。 ・読むこと…読書指導では、全校読書の時間を活用したり、司書教諭を中心に学校図書館利用の充実を図ったりしながら、引き続き読書に対する意欲を高める。長文の流暢な読みに繋がるように、音読練習を継続して行う。説明文では、形式段落を使って文章の構成を考える等の学習を通し、文章の内容を的確に押さえて読むことができるようにする。また、本や文章を読んで交流し合う「話す・聞く」の活動を取り入れるようにする。 		
	1 年	2 年	3 年
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊びを楽しませながら語彙を増やしていく。 ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを聞き落とさないように少人数で話し合う活動を多くもたせる。 ・物語を聞いたり読んだりして内容や感想を伝え合ったり、演じたりさせる。 ・姿勢や口形、発声や発音に注意して話したり、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読させたりする。 ・長音、拗音、促音、撥音の表記、助詞の「は・へ・を」の使い方を理解して文や文章の中で使わせるようにする。 ・昔話などの読み聞かせを聞き、伝統的な言語文化に親しませる。 ・内容のまとまりが分かるような文章を書かせ、感想を伝え合う活動をする。 ・正しく読む力、文章の読解力を伸ばすために、音読練習を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語との関係に気付かせる。 ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使わせる。 ・友達が書いた文章に感想をもち、よいところを見付けさせる。 ・物語を聞いたり読んだりして内容や感想を伝え合ったり、演じたりさせる。 ・長音、拗音、促音、撥音の表記、助詞の「は・へ・を」の使い方を理解して文や文章の中で使わせるようにする。 ・点画の書き方や文字の形に注意しながら筆順に従って丁寧に書かせる。 ・読書に親しませ、いろいろな本があることを知らせる。 ・話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、話の内容を捉えて感想を話し合わせるようにする。 ・正しく読む力、文章の読解力を伸ばすために、音読練習を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの領域についても話したり聞いたりする活動を多く取り入れる。 ・年間を通してローマ字に触れられるよう、掲示物等にもローマ字を意識して使う。タブレットの文字入力練習をしながら、情報手段の基本的な操作も習得させる。 ・主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係について理解させる。 ・辞典や事典の使い方を理解させる。 ・文語調の短歌や俳句を音読する中で、言葉の響きやリズムに親しませる。 ・日常生活の中で決めた話題について伝え合うために必要な事柄を比較し、選ばせる。 ・日常的に資料を読み取って気付いたことを文章でまとめたり、指定された長さで文章を書かせたりする学習を取り入れる。 ・正しく読む力、文章の読解力を伸ばすために、音読練習を継続して行う。
	4 年	5 年	6 年
	<ul style="list-style-type: none"> ・指示語と接続語の役割、段落の役割について理解させる。 ・行事の案内やお礼の文章を書くなど、相手を考えて伝えたいことを手紙に書く活動をさせる。 ・互いの考えを伝え、グループや学級全体で相手の意見を聞き、聞いたことをもとに話し合う活動を取り入れる。 ・文章における敬体と常体の違いに注意しながら書かせる。 ・辞典や事典の使い方に習熟させる。 ・大切なことを落とさずにメモを取りながら聞く活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫させる。 ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分や相手の文章のよいところを見付けさせる。 ・相手の立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合う活動を取り入れる。 ・よく使われる敬語を理解させ、生活の中で使わせていく。 ・資料を正しく読み取り、適切にまとめたり書き直したりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の目的や自分の意図に応じて話の内容を捉えながら聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめて話し、交流させる。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を伝え合うことで共有し、考えを広げる。 ・思考に関わる語句を、話や文章の中でたくさん使わせて、語彙を豊かにさせる。 ・文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係について理解させる。 ・目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりさせる。

◇中富小授業改善ポイント（NJKP）

- ①音読を行わせる。
- ②答えの明確な読み取り問題を出し、確認する。
- ③国語辞典、漢字辞典を使わせる。

【 社 会 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、体験的な学習を取り入れることは難しかったが、デジタル教材を使用することで、児童の興味・関心を引き出すことができた。 ・ICTを活用して学習に必要な情報を探し出すことができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を読み解こうという意欲が不足している。 ・どの学年も、基本的な知識が身につけていない。地図記号、方位、地名、社会的な用語等を覚えていない児童が多い。 ・グラフや資料の読み取り方・考察する力が身に付いていない。

②令和5年度「大田区学習効果測定」調査結果の分析

○4年生は、目標値と比較して「知識・技能」「思考・判断・表現」の2項目で下回っている。
○5年生は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3項目が目標値とおおむね同じになっている。
○6年生は、目標値と比較して「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3項目のすべてが、目標値を下回っている。問題や課題可決に取り組もうとする意欲をもたせる必要がある。
○「知識・技能」については、前学年で基本的な知識を確実に覚えさせる必要がある。4年「四方位・地図記号・火事発生時の連絡の様子・消防設備」5年「八方位・浄水場の仕事・ごみ処理・リサイクル・地図記号・都道府県名」6年「大陸名・主要国の国旗・国土の地形・海流・用語(北方領土問題・品種改良・機械化・輸出入等)・自動車工業・工業地域地帯名等。
○「思考・判断・表現」については、正確に問題を読み、資料やグラフ・年表を読み取ったり、読み取った内容から理由や背景・役割などを考えたり表現したりする力が必要である。

③今年度の授業改善プランとして

指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めには、導入で資料の提示の仕方を工夫して課題設定をし、児童が主体的に取り組めるような学習の流れをつくる。また、基本的な事項の指導を徹底する。 ・学習したことを活用する力を身に付けさせるために、見学や調べたことのまとめ方を指導するとともに、学習の始めに、前時の復習テストや単元途中で小テストを行うなどして繰り返し暗記させる。 ・体験的な学習活動を多く取り入れ、興味をもって学習に取り組めるようにする。 ・プリント学習・タブレット学習を活用して、基礎基本を定着できるように、繰り返し学習させ、学力向上につなげられるようにする。 					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
改善策	1年			2年		
	3年			4年		
5年			6年			
<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットの学習については、家庭の協力を得て、個人での見学とし、自分の生活と結び付けながら学習させる。 ・地図を読み取る活動を多く取り入れ、地図記号・方位を確実に身に付させる。 ・体験的な活動を通して、昔の暮らしと今の暮らしの違いについて考えまとめさせる。 ・ICTを活用して、分かりやすく学習を進める。 			<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習では、人物学習に焦点を当て、その人物の考え・行動について自分なりの考えをもてるように、意見交換や発表を行わせる。 ・図や年表等の資料の読み取り方を指導する。また読み取った資料のまとめ方を丁寧に指導する。 ・世界の中での我が国の役割を考えられるよう、意見交換や発表を行わせる。 ・ICTを活用して、分かりやすく学習を進められるようにする。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・校内や地域の探索等、体験的学習を通して、安全(交通・火災)について地域の人がどのような活動をしているか知り、自分たちに何ができるのか考えさせる。 ・47都道府県の名称と位置に興味をもたせ確実に暗記させる。 ・都の様子について、自分の生活している場所と比較しながら理解できるようにする。 ・ICTを活用して、分かりやすく学習を進められるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> ・国土の環境と人々の生活や産業との関連を、資料を基に考え、まとめられるように、資料の読み方、まとめ方を丁寧に指導する。 ・様々な産業が、多くの分業から成り立っていることを、見学や体験活動を通して気付かせる。 ・授業中、地図・地形図・地球儀等を繰り返し使って、地名や地形、海流、海洋等々を覚えさせる。 ・ICTを活用して、分かりやすく学習を進められるようにする。 			

◇中富小授業改善ポイント(NJKP)

- ①基本的な用語や概念を確認する。
- ②地図帳を使わせる。

【 算 数 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使用することで、主体的に学習に取り組もうとする児童が増えた。また、図形の作図や表の読み取りなど苦手意識をもった児童がタブレット上で操作することで理解を深めることができた。 ・低・中・高の発達段階に応じてノート指導をすることで、丁寧に書ける児童が増えてきている。 ・高学年においては、児童の工夫したノートを掲示することで、授業後の中での気づきや自分の考え方を図やイラストなどで表そうとする児童が増えてきた。 ・補習学習を重点的に取り組み、基礎基本が定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な四則計算の基礎基本が定着していない児童が多い。 ・文章題及び設問内容の読み取りが難しい児童がいる。 ・既習内容を理解できていない児童が多い。 ・身近にあるものの長さや面積やかさ、重さなどの量感が身に付いていない児童が多い。 ・図形の定義を正確に覚え、その図形がもつ性質から、分かることを論理的に導き出すことができない。 ・学年が上がるにつれ、思考力の個人差が大きくなっている。 ・考えたことを自分の言葉や式や図で表現することが難しい児童が多い。

② 令和5年度「大田区学習効果測定」調査結果の分析

- 4年生は、正答率が全国平均や目標値を上回っている、またはほぼ同値の項目が多く、基礎学力の定着ができていると考えられる。しかし、「かけ算の意味」「道のりや道のりの差」では、目標値を下回っているため、問題場面を理解して立式したり、自分の考えを説明したりすることに苦手意識をもっていると考えられる。
- 5年生は、どの項目も全国平均や目標値を上回っている。またはほぼ同様の項目が多く、おおむね基礎学力の定着ができている。「小数の計算」や、「図形」の分度器を使った作図、複合図形の面積の説明をする問題でのつまづきが見られる。また折れ線グラフの読み取りや、「割合」の理解に課題がある。
- 6年生は、小数や分数の計算、約数や通分など基本的な知識・技能が定着しておらず、全国平均や目標値を下回っている項目が多い。「図形」では台形の面積や、四角形の内角の和の求め方が定着していない。「比例・割合」では、時速や分速の関係の理解まで深まっていない。

③ 今年度の授業改善プランとして

指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の初めに前時の振り返りを必ず行い、学習の習熟を図る。 ◎必要に応じて基礎的な計算練習プリントを授業の初めに実施し四則計算を習得できるようにする。 ・ノートには「式・自分の考え(図)・答え」を書く。特に立式の際に図やイラストをノートに書く時間をとり、自分の考え方を視覚化させる。 ・関心・意欲を引き出すため、具体物を提示するなど「導入」を工夫する。また、日常生活の中で算数の学習が活用されている場面などを紹介したり掲示したりする。 ・文章問題・活用問題を解く際には、問題文の意味を理解し、既習事項や図の活用を取り入れ、自分なりの考え方ができるように指導する。 ◎授業や単元の終末には、「①わかったこと・できるようになったこと」「②友達の考えでよいと思ったこと」「③疑問・質問」「④もっと知りたいこと・やってみたいこと」の4点を意識して学習感想を書くように指導する。 					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の場面の理解ができるように、絵や図を提示する。 ・ブロックや数え棒などの具体物を操作し、演算決定につなげる。 ・文章題を解くときには、文章の中のたし算、ひき算の言葉に注目させたり、数値と場面にしるしをつけたりして、意識をさせる。 ・10の分解と合成を繰り返し練習し、正しく計算できるようにする。 ・ICTを活用し視覚的に分かりやすい授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり繰り下がりのある加法と減法、かけ算が確実にできるように繰り返し計算練習に取り組ませる。 ・数カードを使い、繰り上がり・繰り下がりの仕組みを説明させる。 ・日常生活と結び付けながら、時計の読み方を学習する。 ・長さ、量、時計などの学習では、具体物を使った体験活動を取り入れる。 ・ICTを活用し視覚的に分かりやすい授業を展開する。 ・文章題を解くときには、文章の中のたし算、ひき算の言葉に注目させ、操作的な活動を通して視覚的に確かめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり、繰り下がりやかけ算、わり算などの基本的な技能を身に付けるため、授業の始めに計算演習に取り組む。 ・コンパスや三角定規を使った、作図などの具体的な操作活動を充実させる。 ・ICTを活用し視覚的に分かりやすく掲示したり、図形などの学習で児童がタブレット端末上で自由に動かしたりする活動を通して技能を身につけさせる。 ・文章題を解くときには、文章の中の演算決定の根拠となる言葉に注目させたり、数値と場面にしるしをつけたりして、意識をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数、分数の四則計算や数直線に表すことや、四捨五入など基本的な技能を身に付けるため、授業内で十分に時間をとり、繰り返し練習を行う。 ・計算演習プリント、タブレットドリルに取り組む。 ・授業の導入で既習事項を振り返り、本時の内容理解につなげられるようにする。 ・ICTを活用し視覚的に分かりやすく掲示したり、図形などの学習で児童がタブレット端末上で自由に動かす活動をしたりすることを通して技能を身につけさせる。 ・コンパスや分度器を使った、作図などの具体的な操作活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数や分数の計算や百分率の問題を正確にできるように繰り返し練習する。 ・図形の定義や性質(内角の和、平行四辺形や複合図形の求積などを繰り返し、練習し確実な習熟をはかる。 ・ICTを活用し視覚的に分かりやすく掲示したり、図形などの学習で児童がタブレット端末上で自由に動かしたりする活動を通して技能を身につけさせる。 ・文章問題では、二重数直線などの図に表すことで、数量関係を正確にとらえて立式できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算や分数の約分、通分や小数を分数へ変換するなどの基本的な技能を身に付けるため、授業内で十分に時間をとり、繰り返し練習を行う。 ・円や立方体の学習では半具体物を操作させながら、算数的活動を多く経験させる。 ・百分率とグラフの学習では、日常生活と結び付けて考えさせる。 ・ICTを活用し視覚的に分かりやすく掲示したり、図形などの学習で児童がタブレット端末上で自由に動かしたりする活動を通して技能を身につけさせる。 ・文章問題では、二重数直線などの図に表すことで、数量関係を正確にとらえて立式できるようにする。

◇中富小授業改善ポイント(NJKP)

- ①前時の復習を、授業の導入で行い、定着度を確認する。
- ②作図や操作の授業で、問題や考えを教師が確認する。

【 理 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用することで、観察が難しいものや不十分だった実験を視覚的に確認できるようになった ・結果をもとにしながら考えを書く力が、少しずつ身に付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力を向上させるため、課題を明確にして、一人一人が主体的に実験・観察を行えるようにする。(一人一つの実験観察用具準備) ・実験・観察で得た結果から考察する際、自分の言葉でまとめたり、それを知識として定着したりすることができない児童が多い。

②令和5年度「大田区学習効果測定」調査結果の分析

<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に関する正答率が目標値を下回っている。 ○領域においては、どの学年も「物質・エネルギー」の正答率が大きく下回っている。 ○解答形式においては、記述式の正答率が、4・5・6年生共に、特に低くなっている。

③今年度の授業改善プランとして

指導のポイント	今年度の授業改善プランとして		
	1 年	2 年	3 年
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から課題を見付けいけるような学習計画を立てられるようにする。 ・学習過程を大切に指導をする。問題に対して予想や仮説を立て、それを確かめる実験の方法を考案し、結果をまとめ考察する、という過程を板書用カードを使って丁寧に指導する。予想や考察場面では、ICTを活用し、それぞれの考えを共有し、様々な考えがあることを理解したり、同じ考えが多いことを知ったりしながら、実験に取り組むようにする。また、結果から考えられることを自分の言葉で考察する力を養っていく。 ・理科用語の定着をさらに図るために、実験用具の名称や用途を実験前に理解させ、科学用語の意味を丁寧に指導し、それらを使って考えを書くことができるようにする。 ・植物や動物の成長を季節ごとに捉えることができるように、年間指導計画を基に、活動できるようにする。観察が難しいものについては、ICTを十分活用できるようにする。3学期に一年間の成長をまとめる時間を設け、知識の定着を図っていく。 ・身に付けた知識を忘れることのないよう、様々な教材を活用して繰り返し学習できるようにする。 ・学習単元以外でも、日常的に観察を促す機会を増やしたり、既習事項を活用する機会を設けたりする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育栽培活動では、観察や記録する活動はICTを活用し、継続的に行い、知識が定着するようにまとめる。 ・飼育栽培活動は、児童一人一人に配布し、興味・関心をもち観察するようにする。 ・多くの観察や実験を通して比較する力を身に付けさせる。 ・実験用具の名称や用途を事前に理解させ、科学用語の意味を丁寧に指導し、それらを使って考えを書くことができるようにする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から課題を見付けいけるような学習計画を立てられるようにする。 ・興味関心をもつために、児童一人一人に教材をもたせるようにする。 ・関係付ける力が身に付くよう実験や観察の際に、仮説や予想、結果や結論といった過程を丁寧に指導する。(板書用カード使用) ・観察や記録をする際は、ICT教材を効果的に活用する。 ・結果から考えられることを検討する際には、一人で考える時間とグループで意見を出し合う時間の両方を設け、児童自らが考えた言葉でまとめられるようにして、思考力を養う。 ・「星や月」の単元では、ICT機器や体育館で移動プラネタリウムを活用し、視覚的に学習できるようにする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から課題を見付けいけるような学習計画を立てられるようにする。 ・予想をもとに、条件を制御した観察や実験ができるように①課題②予想(理由)③実験④考察⑤まとめという学習過程で指導する。(板書用カード使用) ・興味関心をもつために、児童一人一人に教材をもたせるようにする。 ・全員が課題把握を明確にできるよう導入に工夫し、問題解決への意欲が高まるよう展開する。 ・科学用語を使ってまとめの文を書くようにし、定着を図る。 ・観察や実験の結果を表やグラフ・図に記録し、整理して考える習慣を身に付けさせる。 ・結果や記録を分かりやすくするためにICT教材を積極的に活用する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から課題を見付けいけるような学習計画を立てられるようにする。 ・年間指導計画に基づき、動植物の実験や観察を体験できるようにする。 ・興味関心をもつために、児童一人一人に教材をもたせるようにする。 ・全員が課題把握を明確にできるよう導入に工夫し、問題解決への意欲が高まるよう展開する。 ・単元の終わりにある教科書の「活用」問題に取り組み、実生活で生かせるよう思考力や説明する力を身につける。 ・科学用語を使ってまとめの文を書くようにし、定着を図る。 ・結果や記録を分かりやすくするためにICT教材を積極的に活用する。 ・「星や月」の単元では、ICT機器や体育館で移動プラネタリウムを活用し、視覚的に学習できるようにする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から課題を見付けいけるような学習計画を立てられるようにする。 ・興味関心をもつために、児童一人一人に教材をもたせるようにする。 ・全員が課題把握を明確にできるよう導入に工夫し、問題解決への意欲が高まるよう展開する。 ・単元の終わりにある教科書の「活用」問題に取り組み、実生活で生かせるよう思考力や説明する力を身につける。 ・科学用語を使ってまとめの文を書くようにし、定着を図る。 ・結果や記録を分かりやすくするためにICT教材を積極的に活用する。 ・「星や月」の単元では、ICT機器や体育館で移動プラネタリウムを活用し、視覚的に学習できるようにする。 		

◇中富小授業改善ポイント (NJKP)

①基本的な用語や概念を確認する。

②実験の授業を大切に、明らかになった概念を短くノートにまとめさせる。

【 生 活 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流の機会を設けたことにより、下級生を思いやる気持ちを育てることができた。 ・近隣の幼稚園・保育園児に手紙を渡すなどの交流ができたことにより、4月からの低学年としての交流活動をスムーズに行うことができた。 ・地域にある公園等を有効的に活用し、身近な自然と触れ合うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに沿った活動を行っているが、まだ表現力や思考力が十分育っていない。 ・自分の生活を振り返ることはできるが、自分なりの気づきあまり見られない。 ・気付いたり感じたりしたことを十分に表現できていない。

② 今年度の授業改善プランとして

ポ 指 導 の イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年との活動や体験学習を取り入れて、多様な気づきを引き出し、自分の言葉で表現できるようにする。 ・学校探検や町探検などの活動を通して、学校や自分たちの地域の特徴やよさに目を向けさせるようにする。 ・活動や体験を通して、気付いたことや楽しかったことなどを自分の言葉で表現できるようにする。 ・ICT機器（タブレット端末）を学習活動で、児童が効果的に活用していくようにする（観察、飼育栽培過程の記録を写真に残し、データを蓄積し変化をみるなど） 	
改 善 策	1 年	2 年
	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年との交流活動を通して、相手の立場に立って考える姿勢を育てる。 ・「昔の遊び」などの活動では、実際に昔遊びや体験を通して、地域を支えてきた人々の良さに気付くことができるようにする。 ・家庭生活に関わる活動を通して、家族のことや自分でできることについて考えさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生とのかかわりを通して、2年生としての自覚をもたせる。 ・町探検を計画し、地域にある身近な自然や施設に目を向けることで自分たちの地域の特徴や良さに気付くことができるようにする。 ・相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができるようにする。

【 家 庭 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用し、作業動画を視聴しながら学ぶことができ、学習の個別化が図れた。 ・布を用いた制作では、個人の技能に応じて課題を選択できるようにし、技能を上達させることができた。 ・学習したことを家庭でも実践させる為にスクールタクトで宿題を出し、「家庭での自分の仕事」を継続的に行うことにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手縫いやミシン縫いの技能が身に付けられるよう、経験や個人差に応じた指導を行うことが課題である。 ・場面に応じた、タブレット端末の適切な使用方法について考えていくことが必要である。 ・家庭科で身に付けた力を家庭や地域、社会で実践できる機会を設けたい。

③ 今年度の授業改善プランとして

ポ 指 導 の イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・手縫いやミシン縫いなどの制作の基本的な技能を習得できるよう、タブレット端末で動画教材を作成して学習の個別化を図る。 ・家庭でも学習が進めるよう、WEB教材やICT機器をさらに活用していく。 ・学習の成果をICT機器を使い、学級で共有できるようにしていく。 ・授業で学んだことを生活の中で生かしたり、生活の改善を図ったりできるようにする。 	
改 善 策	5 年	6 年
	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、効果的な学習を進める。 ・自分と家族の生活を振り返らせることで、家族や家庭生活の大切さに気付かせ、協力しようという意欲をもたせる。 ・ICT機器を活用し、保護者の協力を得てより一層、家庭での実践を奨励する。 ・ICT機器を活用し、学習の振り返りなどで発表の機会を適宜設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、効果的な学習を進める。 ・5年生の学習でできるようになったことを振り返ることで、自分や友達の成長を共有し、知識や技能を高めていこうとする意欲をもたせる。 ・ICT機器を活用し調理動画を提供するなど、家庭での調理実践ができるように環境を整える。今後もさらに家庭と連携しながら食の大切さを理解させる。 ・学習の振り返りなどで発表の機会を適宜設けていく。

【 音 楽 科 】

①昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用し、児童が一人で自宅でも練習できるようにしたことで、リコーダーや鍵盤ハーモニカの技能力向上が見られた。 ・ ICTを使用することで、1人で学習に取り組めたり、めあてをもって活動したりすることができた。 ・ 音楽の要素と曲想との関わりを理解しながら、活動につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウイルス感染症の影響で、マスクを外すことに抵抗がある児童が多く、歌唱指導が十分に行えていない。そのため発声や発音に多く課題が残る。 ・ 階名プリントやリズム活動を常時活動で行っているが、教科書や楽譜などで応用できない児童が多い。

②今年度の授業改善プランとして

音楽科における学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電子黒板や掲示物を工夫することで、曲想と音楽の構造などの関わりや身近な音符、休符、記号や用語について理解している。 ・ ICTを活用することで、児童が一人で練習したり、家庭で取り組んだりできるようにし、鍵盤ハーモニカやリコーダーの基礎的な学習や奏法に重点を置いて取り組んでいる。 ○思考力・判断力・表現力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素と、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取るための学習を重点的に取り組んでいる。また知識や技能を得たり生かしたりしながら、どのように表現するかについて思いや意図をもてるようにワークシートやタブレットを使用し学習している。 ○主体的に学習に取り組む能力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常時活動を取り入れることで、自信をもって活動できる児童が増え、他の音楽の学習においても主体的に取り組んでいる。 ・ タブレットを使用することで、自分の活動を振り返りめあてをもって活動できたり、友達の意見や考えを共有したりして学習に進んで取り組んでいる。 		
	1 年	2 年	3 年
改 善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍵盤ハーモニカは、一人一人の学習状況を確認しながらスモールステップで進め、運指やタンギングなどを徹底させる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍵盤ハーモニカは、一人一人の学習状況を確認しながらスモールステップで進め、運指やタンギングなどを徹底させる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーや鍵盤ハーモニカは、一人一人の学習状況を確認しながらスモールステップで進め、運指やタンギングなどを徹底させる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。 ・ 歌詞や旋律から曲想を感じ取り、強弱など様々な表現の工夫を試す活動を積み重ねる。
	4 年	5 年	6 年
<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーは、一人一人の学習状況を確認しながら運指やタンギングなどを徹底させる。 ・ 歌詞や旋律から曲想を感じ取り、強弱や速度など様々な表現の工夫を試す活動を積み重ねる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーや合奏は、一人一人の学習状況を確認しながら運指やタンギング、様々な楽器の奏法などを徹底させる。 ・ 歌詞や旋律から曲想を感じ取り、強弱や速度など様々な表現の工夫を試す活動を積み重ねる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーや合奏は一人一人の学習状況を確認しながら運指やタンギング、様々な楽器の奏法などを徹底させる。 ・ 歌詞や旋律から曲想を感じ取り、強弱や速度など様々な表現の工夫を試す活動を積み重ねる。 ・ 電子教材やワークシート、タブレットを活用し、主体的な学習ができるようにする。 ・ 学習した内容が生かされ、児童が興味をもって取り組めるような題材を設定する。 	

【 図画工作科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT機器を活用した鑑賞を通して互いに見合ったり、よさや面白さを伝えあったりしながら、意欲的に活動や制作に取り組む姿が見られた。 ・ 様々な素材に触れ、自由な発想でものづくりに意欲的に取り組むことができていた。鑑賞の機会を設けることにより、作品のよさに気付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かい作業に苦手意識があり、指先などをうまく使えない児童がいるため、支援が必要である。 ・ 持ち物を忘れ、用意できない児童がいる。 ・ 共同制作活動に制限があったため、友達とグループで造形活動を行うことができなかった。 ・ ICT機器を使用すると単なる模倣になってしまうことがあり、適切な場面での使用法を考える必要がある。

② 今年度の授業改善プランとして

図画工作科における学習状況	<p>○知識・技能 新しい材料や用具を使うことに意欲的である。教科書や電子黒板で用具の使い方を学んだり、復習したりすると正しい使い方ができ、より自分の思いを作品に込めることができるようになる。</p> <p>○思考力・判断力 好きなもの、興味のあることを発想の起点にして、自分の表したいものが明確である児童が多い。表したいものを自分で決めることができずに悩んでいる児童もいる。</p> <p>○主体的に学習に取り組む能力 意欲的に取り組む児童が多い。一方で興味もてず、題材のめあてに合わない活動を行う児童がいる。興味もてるように、タブレットを効果的に活用したり、作ってみたいと思う作品を提示したりして、導入を工夫する。</p>		
改 善 策	1 年	2 年	3 年
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具（のり、はさみ、ボンド、絵の具など）の扱い方や技能を身に付けながら、楽しく活動できる季節にあった多様な題材を設定する。 ・ 制作過程の指導で、ICT機器の活用方法を工夫して児童によりよく学習内容が伝わる工夫をする。 ・ 友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定する。自分の活動に生かせるように言葉かけ、指導を行う。 ・ 学習の振り返りを行う際、発表する場面を適宜設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具（カッターやホチキスなど）の正しい使い方を学ばせるとともに、身近な材料（紙や木片など）を使って楽しく活動できる多様な題材を設定する。 ・ 制作過程の指導で、ICT機器の活用方法を工夫して児童によりよく学習内容が伝わる工夫をする。 ・ 友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定する。自分の活動に生かせるように言葉かけ、指導を行う。 ・ 学習の振り返りを行う際、発表する場面を適宜設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な材料を扱う題材を設定する。（プラ段ボール、布など） ・ 用具を使って、安全に楽しく活動できるように指導する。制作過程において児童の取り組みを称賛する。 ・ 友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定する。自分の活動に生かせるように言葉かけ、指導を行う。 ・ 制作過程の指導でICT機器の活用方法を工夫して児童によりよく学習内容が伝わる工夫をする。 ・ 学習の振り返りを行う際、発表する場面を適宜設ける。
	4 年	5 年	6 年
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な材料を扱う題材を設定する。（木材や段ボール、布など） ・ 絵の具の正しい使い方（混色）や絵の描き方について指導する。制作過程において児童の取り組みを称賛する。 ・ 友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定する。自分の活動に生かせるように声かけ、指導を行う。 ・ 制作過程の指導で、ICT機器の活用方法を工夫して児童によりよく学習内容が伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用具（カッター、糸鋸など）の正しい使い方を学び、基礎的な技能の定着を図る。制作過程において児童の取り組みを称賛する。 ・ 色や形から感じたイメージを取り入れたり、友達と交流をしたりしながら、自分が納得いくまで粘り強く制作することの大切さに気付かせる。 ・ 制作過程の指導で、ICT機器の活用方法を工夫して児童によりよく学習内容が伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵の具の正しい使い方（混色）や絵の描き方について繰り返し指導する。 ・ 既習の材料や用具の経験を活かして、その中から適切なものを選びながら表し方を深めさせる。制作過程において児童の取り組みを称賛する。 ・ 友達の作品のよさや面白さに気付ける機会を設定し、自分の活動に生かせるように言葉をかけ、指導を行う。 ・ ICT機器の活用方法を工夫して児童によりよく学習内容が伝わるようにする。

【 体 育 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
<p>○体カテストの結果の分析をもとに、各種目の記録向上に向けた指導を行った。特に持久力に関しては、朝スポーツの時間などを活用し、継続的に指導を行ったことで、児童の運動意欲の向上も感じられた。</p>	<p>●教師の示範や友達の優れた動きに関心をもち、自分の動きにも生かそうとする姿勢が身に付いていない児童が多い。</p> <p>●自己の課題を見つけ、解決のための手立てを考えたり、自分に合った場を選択したりする思考力が十分に育っていない。</p> <p>●運動に苦手意識があり、粘り強く課題に取り組めずに諦めてしまう児童が多い。</p>

②今年度の授業改善プランとして

指 導 の 工 夫	<p>○「知識・技能」に向けた指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かなスポーツライフを実現するための課題解決的な学習を重視する。 ・自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方を見付けられるよう、ルールを工夫したり活動を選択したりできるようにする。 ・学期に一回(保健)体育学習を振り返る時間を設定し、考えを深め、新たな課題を見つけることができるようにする。 ・学習カードを単元によって作成し、めあてに則したふりかえりを書かせることで、運動的な知識を養う。 ・タブレットで運動している姿を撮影し、自分の動きを客観的にみられるようにするとともに、映像をもとに課題やよい動きを友達とも見つけられるようにする。 <p>○「思考・判断・表現」に向けた指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力することで達成できる課題を設定し、児童が対話を繰り返しながら思考を深めていく学びの過程を意識した授業展開をする。 ・よい動き、よい声かけを取り上げ、児童が意識するポイントを明確にする。 ・運動領域に応じたヒントカードを用意し、児童が解決のための手立てを考えたり、自分に合った場を選択したりすることができるようにする。 <p>○「主体的に学習に取り組む態度」に向けた指導の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動を日々の運動(遊び)を支える重要な機会と捉え、様々な教具を活用した指導を通して楽しさや喜びを味わわせる。 ・朝スポーツを通して体力を向上させるとともに、運動の楽しさや喜びに気付くことができるようにする。 ・運動の場を複数用意し、児童が課題に応じた場を自ら選択して運動に取り組めるようにする。
-----------------------	---

	1 年	2 年	3 年
改 善	<p>○楽しく運動しながら、その結果として、基本的な動きが身に付けられるようにする。</p> <p>○手軽な運動遊びの例を教員間で共有する。</p> <p>○運動遊びを通して感じたことを他者に伝えられるようにする。</p> <p>○誰とでも仲よく運動できる態度を養うためのルール作りやグループ作りを工夫する。</p> <p>○用具や場を安全に使うための約束事を決めておく。</p> <p>○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。</p>	<p>○楽しく運動しながら、その結果として、基本的な動きが身に付けられるようにする。</p> <p>○手軽な運動遊びの例を教員間で共有する。</p> <p>○運動遊びを通して感じたことを他者に伝えられるようにする。</p> <p>○誰とでも仲よく運動できる態度を養うためのルール作りやグループ作りを工夫する。</p> <p>○用具や場を安全に使うための約束事を決めておく。</p> <p>○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。</p>	<p>○児童が楽しく主体的に運動が行えるようなルールや言葉かけ等を教員間で共有する。</p> <p>○課題解決的な学習の中で、自己の考えを伝える活動を重視する。</p> <p>○養護教諭・学校栄養士と連携して健康・食育に関する指導を充実させる。</p> <p>○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。</p> <p>○器械運動領域では、一人一人の運動技能を確認した上で、指導計画を練る。</p>
策	4 年	5 年	6 年
	<p>○児童が楽しく主体的に運動が行えるようなルールや言葉かけ等を教員間で共有する。</p> <p>○課題解決的な学習の中で、自己の考えを伝える活動を重視する。</p> <p>○養護教諭・学校栄養士と連携して健康・食育に関する指導を充実させる。</p> <p>○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。</p> <p>○器械運動領域では、一人一人の運動技能を確認した上で、指導計画を練る。</p>	<p>○自己やチームの目標達成のために、児童が主体的に学習できるようなルールや言葉かけ等を教員間で共有する。</p> <p>○課題解決的な学習の中で、自己や仲間の考えを伝える活動を重視する。</p> <p>○養護教諭・学校栄養士と連携して健康・食育に関する指導を充実させる。</p> <p>○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。</p> <p>○器械運動領域では、一人一人の運動技能を確認した上で、指導計画を練る。</p>	<p>○自己やチームの目標達成のために、児童が主体的に学習できるようなルールや言葉かけ等を教員間で共有する。</p> <p>○課題解決的な学習の中で、自己や仲間の考えを伝える活動を重視する。</p> <p>○養護教諭・学校栄養士と連携して健康・食育に関する指導を充実させる。</p> <p>○補助運動の場を複数用意し、児童が自ら選択して運動できるようにする。</p> <p>○器械運動領域では、一人一人の運動技能を確認した上で、指導計画を練る。</p>

【 外 国 語 科 】

① 昨年度授業改善推進プランの検証

成 果	課 題
児童が外国語に触れる機会が多くなったことで、外国語に対する興味関心が高まっている姿がみられる。ALTの発音から正しい発音の仕方を進んで模倣する姿が見られた。	より児童の主体性を高め、積極的に授業に取り組む児童を増やしていく手立てが必要になる。普段の生活の中でも外国語が多く使われていることを意識できるようにし、日常生活でも使える単語や文あることに気付けるようにしていく。

②今年度の授業改善プランとして

ポ 指 導 の ト	<ul style="list-style-type: none"> ALTの発音から正しい発音を身に付けられるようにするとともに、日本語との違いについて理解できるようにする。 アクティビティなどをより取り入れ、外国語を話す機会を多く取り入れ、話すことへの意欲を高めていく。 ICT機器（タブレット端末）を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。 						
改 善 策	<table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">低 学 年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 簡単な挨拶や身の回りの物を表す外国語を知り、外国語の音声やリズムに触れるようにする。 簡単な挨拶や質問の外国語のフレーズを練習し、それに対する返しをいくつか練習し、友達に質問する活動を行う。 外国語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る活動を積極的に行う。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">中 学 年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 学習した単語や表現をゲームなどの活動を通して楽しみながら、身に付けることができるようにする。また単語をフラッシュカードに書いて提示し、アルファベットに触れる機会を多く設ける。 自分のことや身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、質問に答えたりする。 教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">高 学 年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 活字体で書かれた外国語の文字を識別し、その読み方を発音することができるように練習を繰り返していく。 音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように繰り返し練習する。 大文字、小文字を活字体で書くことができるように繰り返し練習をする。 自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるように友達同士、児童とALTでのやり取りを繰り返し練習する。 </td> </tr> </tbody> </table>	低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な挨拶や身の回りの物を表す外国語を知り、外国語の音声やリズムに触れるようにする。 簡単な挨拶や質問の外国語のフレーズを練習し、それに対する返しをいくつか練習し、友達に質問する活動を行う。 外国語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る活動を積極的に行う。 	中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 学習した単語や表現をゲームなどの活動を通して楽しみながら、身に付けることができるようにする。また単語をフラッシュカードに書いて提示し、アルファベットに触れる機会を多く設ける。 自分のことや身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、質問に答えたりする。 教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。 	高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 活字体で書かれた外国語の文字を識別し、その読み方を発音することができるように練習を繰り返していく。 音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように繰り返し練習する。 大文字、小文字を活字体で書くことができるように繰り返し練習をする。 自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるように友達同士、児童とALTでのやり取りを繰り返し練習する。
低 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な挨拶や身の回りの物を表す外国語を知り、外国語の音声やリズムに触れるようにする。 簡単な挨拶や質問の外国語のフレーズを練習し、それに対する返しをいくつか練習し、友達に質問する活動を行う。 外国語の歌やゲームを通して、コミュニケーションを図る活動を積極的に行う。 						
中 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 学習した単語や表現をゲームなどの活動を通して楽しみながら、身に付けることができるようにする。また単語をフラッシュカードに書いて提示し、アルファベットに触れる機会を多く設ける。 自分のことや身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問したり、質問に答えたりする。 教科書やデジタル教材を活用し、様々な国の文化や習慣の違いを知り、日本との共通点や相違点について話し合う活動を取り入れる。 						
高 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 活字体で書かれた外国語の文字を識別し、その読み方を発音することができるように練習を繰り返していく。 音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるように繰り返し練習する。 大文字、小文字を活字体で書くことができるように繰り返し練習をする。 自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるように友達同士、児童とALTでのやり取りを繰り返し練習する。 						